

※この使用説明書をよく読んでから使用してください。

使用説明書

2010年2月作成

—— カンジダ属簡易検出用 ——

「セロテック」C A — T G 培地

本培地は従来の真菌分離培地に改良を加え、検体中のカンジダ属を選択的に分離検出するためのものです。

本培地に調合された銅塩及びメチレンブルーの作用により *Candida albicans* は緑茶～淡褐色に *Candida glabrata* (旧名、*Torulopsis glabrata*) は暗褐色～緑褐色のコロニーを形成するので、その区別が容易です。

カンジダ属は真菌症の起因菌の1つで、鵝口瘡、乳児寄生菌性紅斑あるいは、粘膜皮膚カンジダ症、陰門膣カンジダ症などの原因になります。そのいずれも *Candida* 属(中でも *Candida albicans*) が主原因菌とされています。この *Candida albicans* とともに生体の常在菌叢の1つとなっている *Candida glabrata* を選択的に検出分離し、両者を簡易に鑑別するために考案されたのが本培地です。

培地組成

本培地は、1,000mL中に次の成分を含有するブドウ糖、酵母エキス、ペプトン寒天培地の一種です。

ペプトン	10.0g	硫酸銅	0.47g
酵母エキス	5.0g	メチレンブルー	0.01g
ブドウ糖	40.0g	ツイン 80	3.0 g
寒天	15.0g	細菌抑制物質	

pH 5.5 ± 0.2(25℃)

特長

- (1) 小型ガラス容器入りの既製斜面培地で操作が簡単です。
- (2) カンジダ属酵母は明瞭にかつ迅速に発育します。
- (3) 真菌以外の細菌類は、細菌抑制物質の作用により発育しません。
- (4) *Candida glabrata*を除くカンジダ属の酵母は細胞内への銅イオンのとり込みが弱いので緑茶～淡褐色のコロニーを形成します。これに対し、カンジダ症の原因菌ではありませんが、生体各組織にしばしば見られる *Candida glabrata* は、銅イオンのとり込みが強いので暗褐色～緑褐色のコロニーを形成します。したがって両者は明瞭に区別されます。
- (5) 本培地は、未開栓で遮光し室温に保管すれば製造後1年6ヵ月間の保存に耐えます。

使用法

新鮮な検査材料を添付の滅菌綿棒で直接本培地面に塗抹し、キャップをゆるめて27～37℃の恒温器で2～4日間培養します。

使用上の注意

1. 培地瓶のキャップ及び綿棒の袋は、使用时以外には開封しないこと。
2. 塗抹後の培地は、コロニーの判定を明瞭にするため最終判定まで転倒しないで直立させたままにしておくこと。
3. 塗抹後の培地は、キャップをいったん密封後、僅かにゆるめて空気の流通ができる程度にしておくこと。密封したまま培養すると培地及びコロニーの色が変わって判定しにくくなる場合があります。
4. 培地には直射日光を当てないこと。
5. 万一、使用前の培地にカビ等の発育が認められる場合は使用しないでください。
6. 有効期限を過ぎたものは使用しないでください。
7. 一度培養試験に供した培地は再使用しないでください。
8. 使用後の培地は高圧蒸気法で121℃、30分間以上滅菌処理してから廃棄してください。

判 定

被検物にカンジダ属が存在すれば、菌種及び塗抹方法によって多少発育の遅速はありますが、48～72時間後には緑茶～淡褐色クリーム状のコロニーを形成します。中でも *Candida glabrata* (旧名、*Torulopsis glabrata*) は暗褐色～緑褐色の偏平なクリーム状のコロニーを形成します。

本培地には、糸状菌(いわゆるカビ)が発育してくることもあります。コロニーの状態、気中菌糸などを肉眼あるいは低倍率の顕微鏡で観察すれば明瞭に区別できます。

本培地に生育して来たカンジダ属の菌種名の決定には、形態観察や糖利用、糖発酵などの生物学的試験を行ってください。

包 装

10本入 (製品コード：CDR305-10)

10本入×10 (製品コード：CDR305-20)

貯 法

遮光して室温(1～30℃)に保存します。

凍結させないで下さい。

有 効 期 間

製造後1年6ヵ月 (有効期限は外箱、添付ラベルに記載)

製造販売元



株式会社 **セロテック**

札幌市豊平区月寒西1条8丁目8番7号

TEL(011)855-1131(代)